

1学年 進路通信 第2号(保護者の方へ)

2018年 6月11日(月) 埼玉県立岩槻高等学校 1学年進路係



入学して2か月が経ちました。少し不安そうに高校生活を始めた1年生も、今はしっかりと勉強や部活動に励んでいます。学年としては中間考査の取組みと結果を振り返り、改善できるよう指導しております。高校卒業後の進路については、人生を大きく左右する選択になります。のんびりしているとあっという間に目の前にきてしまいます。その時になって焦らないように、この三者面談をきっかけにご家庭でも話し合いをしていただきたいと思います。

入学式等でもお伝えしておりますが、現1学年から大学入試が大きく変わります。詳細については今回お配りしている『高1保護者 新大学入試ガイド』をご覧くださいと思いますが、大きなポイントは3つです。

①**センター試験が「大学入学共通テスト」に変わる。**国公立大学の一次試験として利用されているだけでなく、ほとんどの私立大学においても選抜に利用されているセンター試験ですが、名称が変わり、**国語・数学では記述式問題**が課されるようになり、各科目においても**思考力・判断力・表現力を問う問題が増える**見込みです。単なる暗記では対応できない入試に変わるということです。

②英語では**「書く」「話す」を含む「英語4技能」が重視**されます。「大学入学共通テスト」においては「聞く」「読む」力を測るテストが行われますが、英検・GTECといった**民間の資格・検定試験を活用**することが決まっています。推薦入試・AO入試・一般入試でも資格・検定試験を利用する大学が増えており、「書く」「話す」力についても向上させることが求められています。

③推薦等だけでなく**一般入試でも諸活動が重要**になります。調査書の様式・記入項目が大きく変わり、以前にも増して、資格、部活動実績、学校内外の活動、そこで何をどう学んだか、等が重視される見込みです。勉強以外の面でも様々なことに挑戦する3年間としてほしいと思います。

家庭での学習習慣の確立

4月当初にスタディサポートという進路と学習に関する調査を行いました。校内結果は、以下の通りです。

・ 学校生活の満足度	7.0点(10点中)		
・ 希望進路			
	大学・短大	55.0%	(前年 62.1%)
	専門学校	25.7%	(前年 18.7%)
	就職(公務員を含む)	3.4%	(前年 2.8%)
	海外進学・その他	2.5%	(前年 1.5%)
	未定	13.4%	(前年 14.9%)
・ 全体の学習時間の平均			
	平日	1時間17分	
	休日	2時間10分	

生活のリズムをつかむまではいろいろと大変かと思いますが、家庭学習の習慣をつけるよう、ご家庭でのご指導をよろしくお願い申し上げます。

岩槻高校1学年の取り組み

◆Classi導入：左記でお伝えした③を意識して、お子様の様々な取り組みやデータを蓄積できる「Classi」というポートフォリオを導入しています。調査書に記載できる有意義な項目を増やすことの他にも、学習補助プログラムも多数あり、今後活用していく予定です。

◆朝学習：毎日朝8:30-8:40まで朝学習を行っています。小さな積み重ねが大きくなり、学力向上につながることを目指しています。8:25には着席しているようにお子様には伝えております。ご家庭でも時間の確認をお願いいたします。

◆朝学習テスト：各定期考査前の総合学習の時間(学期に2回)に英・国・数の3科目について朝学習内容を確認するテストを実施しています。やりっぱなしにせず、しっかりと力をつけることを目指しています。

◆定期考査の学習計画・振り返り：Classiも活用しながら、Plan→Do→Checkをしっかりとできるようにし、学習姿勢の確立と、学力向上を目指しています。

◆スタディーサポート年2回(4月・9月)・進研模試年2回(7月・11月)・GTEC全員受験(7月)・英検校内受験年3回(6月・10月・1月)・小論文模試(10月)：外部試験や模試を受験することにより、自分の実力や強み・弱みを知り、その後の勉強に活かしていくことを目指しています。GTECについては、英語の4技能を測る試験です。定期考査と同じく、事前・事後学習も促しています。

◆定期考査等の優秀者掲示：定期考査やスタディーサポート、模試などの各教科・総合の成績優秀者上位40名を掲示板に掲示しています。他の生徒の頑張りを見たり、自分が優秀者に載ることで学習のモチベーションを高めることを目指しています。実際に多くのお子様は優秀者掲示を意識して取り組んでいます。

その他にも、外部講師を招いた進路講演会の実施、総合学習やLHRの時間を活用した職業・学問・大学研究、看護体験、小高交流体験、獨協大学との高大連携等で、お子様の進路選択をサポートしていきます。また、進路通信は本校HPにもアップいたしますので、そちらからもご覧ください。

夏休みの進学講習について

本校では、夏休みや冬休みなどの長期休業中に進学講習を全学年で実施しております。1学年では、国語・英語・数学の3教科で1学期の復習もかねて基本的な内容を中心に7月下旬から8月上旬まで、各教科1週間程度行う予定です。

おかげさまで毎年、大勢の進学講習希望者がおり、部活動との両立を図りながら参加しています。費用は無料です。(テキスト代が数百円かかる場合もあります。)7月頃に募集を開始しますので、ぜひお子さまに積極的に参加するようお口添えください。

校内推薦基準について

進路のしおりP.25～33に本校の指定校一覧（30年度入試）が掲載されています。
各学校ごとに基準が設けてありますが、出願に当たり本校の校内においても推薦基準がございますので下に基準を記させていただきます。

（1）指定校推薦

①大学・短大・一覧に掲載された看護医療系専門学校

- ・ 評定平均が大学・短大・一覧に掲載された看護医療系専門学校の要求する基準を満たしていること
- ・ 欠席が3年間で10日以内。
- ・ 遅刻が3年間で30回以内。
- ・ 評定平均について要求される基準がない場合は原則として2.7以上とする。

②専門学校（一覧に掲載された看護医療系専門学校以外）

- ・ 各専門学校の要求する基準を満たしていること。

（2）一般推薦

①大学・短大・一覧に掲載された看護医療系専門学校

- ・ 評定平均が大学・短大・一覧に掲載された看護医療系専門学校の要求する基準を満たしていること
- ・ 欠席が3年間で20日以内。
- ・ 遅刻が3年間で50回以内。
- ・ 評定平均について要求される基準がない場合は原則として2.7以上とする。

②専門学校（一覧に掲載された看護医療系専門学校以外）

- ・ 各専門学校の要求する基準を満たしていること。

進学にかかる費用について

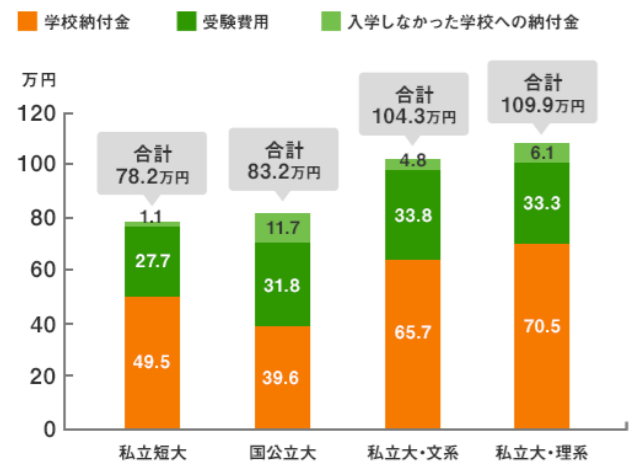
進学に際して、どれくらい費用がかかるのかご存知でしょうか？

進学先が国公立大なのか、それとも私立大なのかによって、入学費用は大きく異なります。

特に、私立大・理系学部の場合、入学金や授業料に加え、「施設設備費」「実験実習費」など施設使用や実験・実習に伴う費用がかかる場合が多く、文系以上に学校納付金は高くなります。

直前になって慌てるのではなく、事前に情報を入手してなにがどれくらいかかるのか知っておくことが重要です。少しでも気になる学校があれば、資料を取りよせてみましょう。

国公立・私立大別に見た入学費用（子ども1人あたりの費用）



詳しい費用や支払時期、奨学金などの情報につきましては別にお配りした「進学費用と教育ローン・奨学金」の小冊子をご覧ください

高校式学習スタイルに変えるサポートを

前号で生徒にも伝えましたが、基本的な学習習慣は生活の安定したリズムと関わってきます。また、部活動と学習をきちんと両立している生徒は3年次に大きく躍進する傾向があります。しかし、お子さまが高校での授業に対応できるかどうか心配されている保護者の方もいらっしゃると思います。そこで、今回は保護者がどのようにサポートに関われるかをご紹介します。

【ポイント①】 普通の授業を大切にさせる

日々の授業で学ぶ内容は2年後の入試を突破する基礎になります。中学と比べて、高校の履修範囲は非常に広いため、授業のペースに合わせてその都度確実に理解することが必要です。

ただし、高校では授業のスピードも速く、内容もだんだん難しくなるので授業に集中するだけで内容を完全に理解することは容易ではありません。そのため、予習する→授業中は理解する時間として活用する→復習で定着させる というサイクルが大切になるのです。

【ポイント②】 家庭学習を習慣化する

「予習→授業→復習」のサイクルを作るためにはお子さまの生活に合った学習習慣づくりが不可欠です。家庭でも1日の生活サイクルを意識させ「決まった時間になったら机に向かう」という意識付けをサポートしたいところです。

そのために夕食の時間と入浴の時間をできるだけ固定することをおすすめします。起床時間や就寝時間、勉強時間は生徒自身がある程度自分の意志でコントロールすることができますが、食事・入浴は家族の都合もあるため、この時間を一定にすることで、帰宅してから就寝までのどの時間帯に勉強するか計画をたてやすくなります。

【ポイント③】 進路目標を早めに持たせるようにする

日々の授業や家庭学習に取り組むモチベーションをキープするためには目標を持つことも重要です。「自分はどの大学で何を学びたいのか」という目標が決まっていれば、長丁場になる受験勉強でもくじけず前向きに取り組んでいけるはずで

とはいえ、進路目標はすぐに決まるものではありません。じっくりと時間をかけて将来のことを自分自身で考える必要があります。時間がかかるからこそ、高1のときから意識しておくことが重要になるのです。ただし、進路目標はあくまでお子さま本人が決めるものです。保護者に心がけていただきたい働きかけはお子さまが気づいていなかった興味を引き出したり、学びを意識させること。普段の何気ない会話の中で「高校を卒業したらどんなことを学びたい?」「このニュースについて私はこう思うんだけど、あなたはどんなふうに考える?」など、声をかけてみてはいかがでしょうか。これらは進路を考えるきっかけにもなるはずで